# 園だより

令和７年10月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

## 『個を尊重するということ』

保育園時代の私は身体が小さく泣き虫で、運動が苦手な子どもでした。また、争いごとや勝ち負けのある遊びをあまり好みませんでしたが友だちのことは好きで、いつも誰かにくっついて遊んでいました。負けず嫌いではありませんでしたが、人一倍憧れる気持ちが強かったように思います。その対象は同じクラスの友だち。〇〇みたいに〇〇になりたい、と常に自分にない部分に惹かれ、その姿に少しでも近づきたいと真似をしてみたり人知れず練習をしたりした記憶があります。

年長の時、紐状の布を三つ編みにし、手作りの縄で縄跳び遊びをしていました。手先が器用だった私は、この時とばかり編み方を教えたり一緒に編んだりして必死に自己顕示していました。それまでは助けてもらうことばかりでしたが、得意なことが少しずつ見えてきた頃でした。その縄を使い、運動会で縄跳びリレーをすることになりました。自他ともに認める運動嫌いの私は、普段集団遊びの中で頭数に加わることなく一緒に遊んでいましたが、競技となるとそうはいきません。私はにわかに緊張し、運動会が嫌になりました。もしも負けたら友だちが悲しむかもしれない。自分のせいで負けたと責められるかもしれない。ただでさえ勝負事は好まないのに、自分だけの勝負ではないことで発生する責任がのしかかってくるのを感じました。やりたくないな、と思いました。でもチームメイトの一人が言いました。「ころばなないでとべばいい」と。特別速く走ったり上手に跳ばなくていいから転ばないでバトンをつなぐ、というのがチームの中での私の目標でした。それから毎日チームメイトが交替で朝も夕も一緒に跳び、励ましてくれました。ちっとも速くはなかったけれど、一緒に跳ぶことが楽しかったし、どんな役割でも自分が頭数としてチームの一員となったことの嬉しさと、負けられない、勝ちたいという思いも芽生えてきました。運動会当日の勝敗はちっとも覚えていません。私の中では、日常の一角だったからではないかと思います。記憶に残っているのは、運動は得意でなかったけれど毎日友だちと一緒にたくさん跳んで楽しかったこと。一人の存在として認められた嬉しさ。そして、自分だけでは味わえなかった勝負事での喜びや悔しさを友だちと分かち合ったことです。

近年“個”の尊重から勝負事を経験する機会が少ない傾向にありますが、悔しさや喜びを友だちと一緒に味わうからこそ自分を知り相手を知って互いを尊重し合えるのではないかと思います。大きな行事はいつもと違う特別な日ではありますが、連続した毎日の中の一コマです。今年も当日だけでなく日々の中にたくさんのドラマがありました。そうした一日一日を、大切に過ごしていきたいと改めて感じました。　　文責：須田千鶴子

◎１０月１１日（土）１１時～１３時半『どてのこまつり』を開催します。子どもも大人も楽しめるよう多数の出店があり、どんぐりの庭の舞台でも催しが目白押しです。在園している方、卒園された方々、地域の方々との交流の場でもあります。力を合わせて取り組んでいきましょう！

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| 10月 | 頭ジラミチェック | | | | | りす個人面談週間 | 健康体育 | | | | どてのこまつり | | スポーツの日 | 避難訓練 | 健康診断（０・２歳児） | | | | | ことり個人面談週間 | | どて写真の日 | 冬まつり集会① | | | | | | | 芋ほり遠足（４・５歳児） | 誕生会・写真の日 |